

## セルカークカレッジ活動報告

国際環境工学部 情報システム工学科 4年（参加当時）

私は一ヶ月間カナダのセルカークカレッジで留学した。ホストファミリーに最初に会ったのは小さなキャッスルガー空港だ。初日は、まだカナダでの生活に慣れず、ご飯があまり食べられなかった。また彼らの英語も全く聞き取れなくて大変だった。そんな私に彼らはボードゲームや映画を一緒に楽しんでくれて、すぐに生活に馴染むことができた。授業が始まるまで、彼らはいろいろなところに連れて行ってくれた。

Kokanee park では、1年の間でこの時期にしか見るできない、赤色のサーモンを見ることができた。サーモンが川の高い所に頑張って登ろうとしている光景も見えた。

ビーチパーティーでは、教会の人々と共にカヤックをしたり水上バイクに乗ったりホット



ドッグを食べたりと、さまざまなアクティビティを楽しんだ。私はこの場でたくさんの人に積極的に話しかけた。現地の若い人達は日本の漫画や音楽に詳しくあったため、話題が広がり会話を楽しむことができた。

また、2日後に再び別の湖に行った。そこではハンバーガーやスナック、スイカを食べたり、野生の鳥やリスに餌をあげたりした。ルームメイトと私は湖の中にある大きな岩を探しに水中へ入ったが、結局見つけられなかった。水中はとても冷たく、季節のギャップを感じた。

最初の学校のイベントは Get Connection と呼んで、様々な学生と交流を深めるレクリエーションイベントである。そこで私は様々な生徒に話しかけ、友好関係を作り、全力でアクティビティを楽しんだ。その日の夜は、ルームメイトの韓国人に日本の味噌汁を振る舞った。味は韓国のもので少し違いがあったみたいだが、彼はとても喜んでくれた。

セルカークカレッジの講義は日本のものとは違った雰囲気新鮮だった。先生が皆フレンドリーでテンションが高く、講義を楽しめるものにしようとしているのが伝わった。放課後はみんなで体育館に行っているようなスポーツを楽しんだ。そこにはインド人やフィリピン人、韓国人、メキシコ人など様々な国の人々がいたので、一緒に誘って遊ぶ時

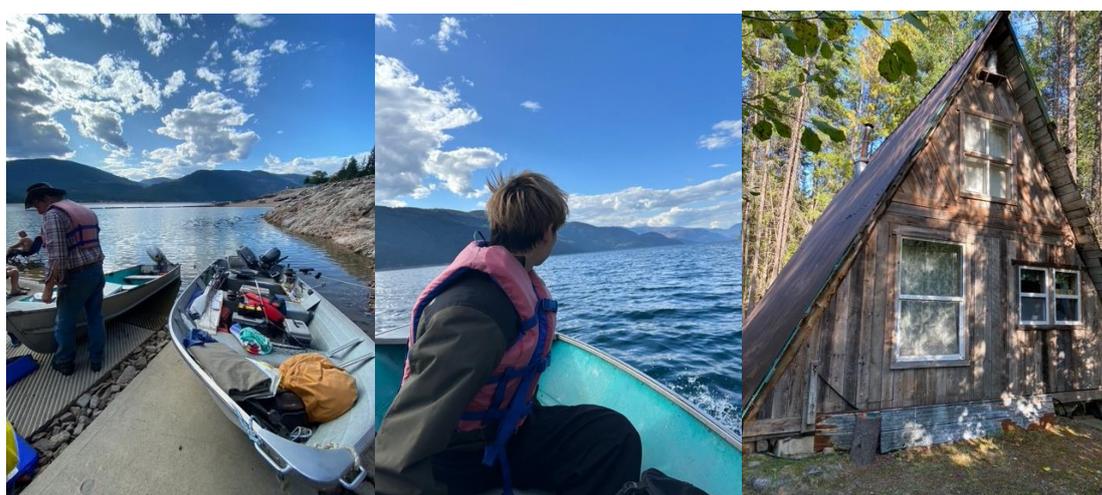
もあった。国によって発音の癖がかなり違ったので、リスニングが大変だった。しかし、スポーツは言語の壁を超えることを実感した。

私とルームメイトは木曜日が全休だったので、近場のアジアレストランに行った。そこには日本食や韓国食もあったので、お互いにそれぞれの母国の料理を食べた。私は寿司と



味噌汁を食べたが、やはり味は日本のものと少し違っていた。日本食の素晴らしさに身をもって体感することができた。

そして二回目の週末にはキャビンに行った。キャビンとは木の家で、ホストファミリーが20年かけて自力で作った家である。まずそこへの行き方からアクティブだった。家から車で1時間ほどかけて小さな港へ行き、そこからボートに乗って大きな川を渡る。そしてまた車で10分ほどかけてキャビンへ着く。初めてそれを見た時は衝撃だった。中はちゃんとした一軒家の家で、まるで素人が作ったとは思えないほど立派な家だったからだ。



家についてから、サイド・バイ・サイドに乗って山道を進み、ハイキングをして山の頂上に行った。そしてまた家に戻り、焚き火をしてマシュマロを食べた。夜には夜景を見に行ったが、今まで見た中で一番の絶景だった。天の川まで見ることができた。

次の日は滝を見に行き、人生初の射撃体験を行った。兵役の経験をしていたルームメイトとホストファミリーはとても上手で、うまく的を当てていた。滝も迫力があり、改めてキャスルガーの自然の素晴らしさを実感した。

学校の講義の時間は基本8時から15時までであり、昼に1時間の休憩がある。この時間はいつも友達とカフェテリアに行っている。そこでいつもやっていたのが、じゃんけん負けたら知らない人に話しかけるゲームだ。毎日様々な国の人のところへいき、話しかけていた。そのおかげか、日に日に友達が増えていき、学校ですれ違う人の大体が顔見知りになっていた。また初対面の時に話す英語のスピーキング力だけ完璧になっていた。ある週の火曜日にはホストファミリーと映画を見に行った。火曜日は映画が安くなるらしく、私はホラー映画を見に行った。キャスルガーの映画の好きだったところは、リクライニングシートがあるところだ。とても快適に映画を見ることができた。しかし、日本語字幕がないので、ストーリーを理解するのがとても難しかった。

その日の夜、寝ていたら深夜にホストファミリーの母親に起こされた。何かかと思い、すぐに自分の部屋の窓をのぞくと、そこにはクマがいた。自分の目の前でゴミ箱を思いっきり漁ろうとしていた。人生初のクマだったのでとても刺激的で、目も覚めてしまった。

毎週日曜日には教会に行った。そこでは人々が自分の体験談とそこで得た教訓について話し、キリストの歌を歌うのだ。その後は教室へ行き、人としての教養を学ぶ。内容がとても難しく日本語でも答えるのが難しいくらいだったが、10~17歳くらいの子供たちが難なく答えていたのでとても驚いた。毎週日曜日に教会へ行くと気分がリセットされ、気持ちよく次の週に臨めるので、とても好きな時間だった。

最後の学校の日、みんなでボンファイヤーをした。火を囲んでソーセージを焼き、マッシュマロを食べ、カラオケ大会もした。そこで卒業証明書をもらい、学校生活を終えた。その後ホストファミリーとホットスプリングに行った。温水プールでみんなゆっくりしていた。一番驚いた所は鍾乳洞の中にも温泉があったことだ。

たった1ヶ月の留学生活だったが、たくさんの友達ができ、いろんな場所へ行きいろんな体験をしたことで、まだまだここに居たいという気持ちが膨らんでいった。最後のキャスルガー空港では多くの友達が見送りに来てくれて、泣いている人も沢山いた。

今回の留学で私は前より人と話すことが好きになった。また、積極的に人に話しかけていたおかげでリスニング力とスピーキング力が以前よりも格段に上がった。日本と英語圏の文化の違い（良いところも悪いところも）についても身をもって体感することができた。

帰国後も私は積極的に英語の動画を見たりキャスルガーの友達やホストファミリーに電話したりしようと思う。